ひきこもりに対する
アウトリーチ支援事業のご提案

特定非営利活動法人
山梨県キャリアコンサルティング協会
理事・キャリアコンサルタント　長谷川　和信

作成日：令和2年2月10日

サポステで出会う若者たち

- 不登校、ひきこもり歴があり、社会からの孤立感を持っている
- 分かり合える人が少ない（いない）事による孤独感
- 社会における自己有用感が低い
- 自分自身に対する自己肯定感が低い
- 知識、経験が乏しく、先を想像できない

このような状態や気持ちの若者が、

「自分の人生をなんとかしたい、変えたい」という思いで相談や支援を受けに来ている。

若者が孤立する原因

発達障害、軽度知的障害、学習障害、生活困窮を原因としたネグレクト、虐待、など「**個人特性**」や、いじめや学校・職場不適応など「**環境特性**」により、孤立する子ども、若者が増加している。

1. 個人特性、環境特性は「人に理解されにくい、発見されにくい」
2. 「人に理解されない」ことから、他者から疎外され、人前に出るのが怖い、「自分の居場所はない」という感情が生まれる。
3. それらの感情から、「**自ら他者と隔絶する**」という行動をとる。

ひきこもり状態に陥る。

ひきこもりは「社会的問題」

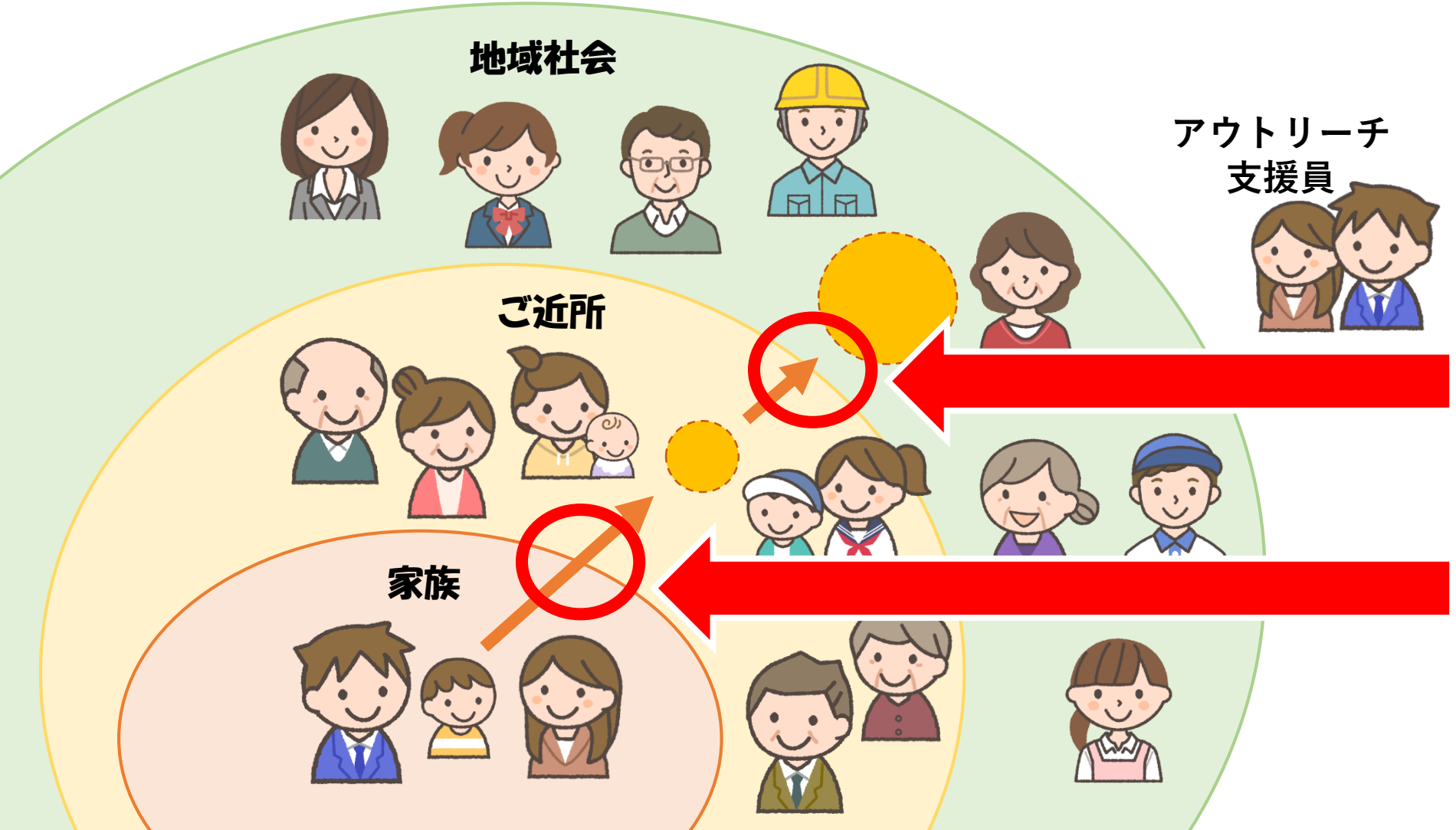
- ひきこもりを当事者の自己責任とし、当事者や家族の力だけで解決することは難しくなってきている。

  →当事者の抱える課題が専門的な支援を必要としている。

- ひきこもりは社会的問題として捉え、医療や福祉の専門家や行政による地域援助を行わなければ解決することは難しい。

  →社会的問題と捉え、地域資源を活用した支援が求められている。

子ども、若者の孤立を防ぐ、自立を促すためのアウトリーチ支援



子供が成長する過程で
親が行うことを支援者も
一緒に手助けする。
支援者が地域社会への
橋渡しをする存在となる。

○○市のひきこもりの状況について（例）

○○市市内のひきこもりの数予測（人口の割合から）

- 15～39歳人口　8,715人（H27年調査）
- 1.57%（15～39歳に占める広義のひきこもり状態にある人の割合）
  （内閣府H28年度若者の生活に関する調査より）
- **137人**（○○市市内15～39歳人口の割合における**ひきこもり予想数**）

山梨県内のひきこもりの数予測（人口の割合から）

- 3,262人（山梨県内15～39歳人口の割合におけるひきこもり予想数、H27年調査）

やまなし若者サポートステーション　○○市内利用者状況（平成28年4月～令和2年2月現在）

- 新規登録者数　46人（男性17人、女性29人）
- 就職者数　42人（男性15人、女性27人）

（参考）

ひきこもり状態の放置は社会的損失につながる

【最悪の場合の“一人当たり”を中心とした損失】

- １人が一生働かない事での経済損失は**2億円以上**
- 行政損失額　**1億5万円**（内生活保護費：9千万円）

※参考資料：厚生労働省・内閣府調査

逆に、35歳から年収200万程度で働き出した場合約8千万のプラスというデータがある。マイナスとプラスの差は大きく、1人が自立するだけで数億円の効果があり、アウトリーチによる支援は社会にとって高い効果があります。

「ひきこもり」に対しての支援状況

自立	・自分の意思で就職活動が行える。 ・社会の基本的ルールやマナーがわかる。
進路選択レベル	・前向きに「仕事（学業）」や「自分」について考えることができる。 ・自分を分析、理解できる。
社会参加レベル	・ボランティア活動や体験活動に参加できる。 ・他者とコミュニケーションがおおむねとれる。
準ひきこもりレベル	・外に出ることができる。 ・他者と会話を行うことができる。
ひきこもりレベル	・外出困難

ジョブカフェ
やまなし

若者サポートステーション事業

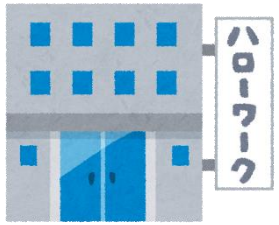
県ひきこもり
相談窓口

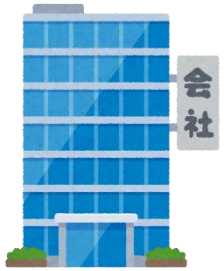
若者サポート
ステーション事業
では、直接支援
ができない。

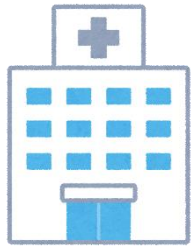
ひきこもりに対する直接的支援(アウトリーチ支援)を
行える機関が少なく、支援の手が届きにくい。

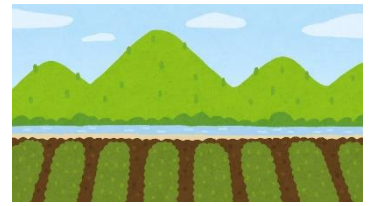
アウトリーチ（訪問）支援員の活動概要

- ひきこもり状態の子ども、若者に対するアウトリーチ支援（訪問支援）を行い、社会へつながるきっかけづくりを行う。
- 「支援ネットワーク」を作り、子ども、若者を「適切な支援」につなげる、また、「支援のはざま」に落ちないように支援体制を作る。
- 支援者や支援ボランティアを育成し、ひきこもり支援活動の輪を広げる活動を行う。









アウトリーチ支援（訪問支援）とは

窓口相談支援

【相談対応は「待ちの支援」】
自主性は保たれるが、時間がかかる。

ひきこもり

当事者・家族の自主的な相談 → 出口

アウトリーチ支援

【アウトリーチは「伴走型訪問支援」】
専門家による働きかけで適切な支援につなげる。

「見守り・家庭訪問」だけではなく、アセスメントし支援の方策を立てる。

アウトリーチ
支援員

発見 → 誘導 → 参加 → 出口 → 定着

アウトリーチ支援で「当事者のため」の支援チームを作る

アウトリーチ

来所を待つのではなく、困りごとのある人のもとへ出向く。

継続面談をする中で信頼関係を築く。

面談

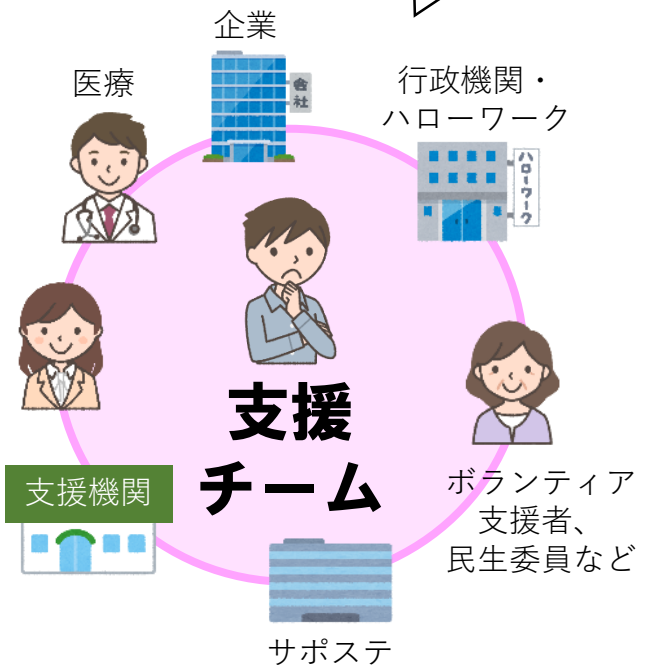
相談者にセンター以外の関係性をつないでいく。

同行

開拓

相談者のために必要な既存の連携先にない社会資源は開拓する。

チームを取り巻く「地域の力」を巻き込んでいく。



ケース会議

相談者を中心に、一人ひとりに合わせた支援チームを作り、孤立を防ぐ。

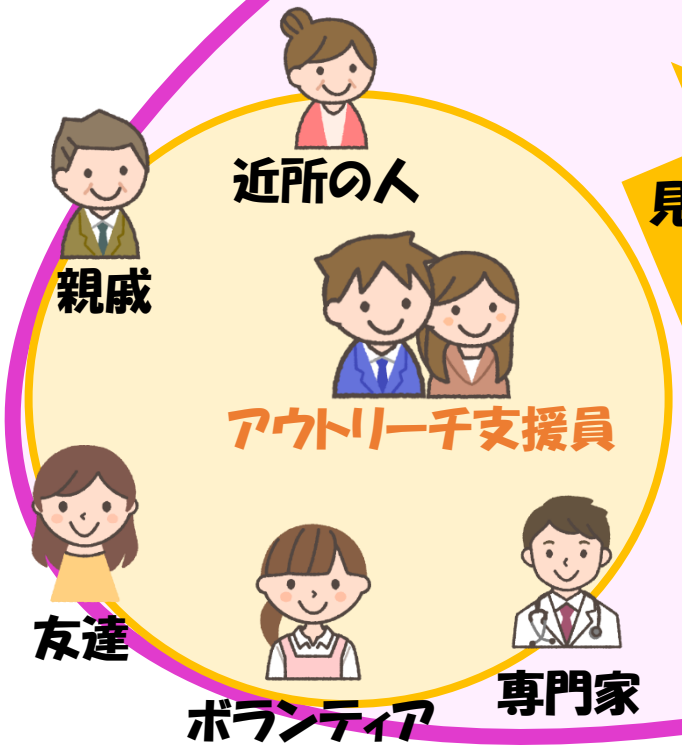
アウトリーチ支援員がかかわる範囲

**社会へ出るためには、
自分の存在を認められ、
安心できるコミュニティが必要**

★社会定着までを支援する
・社会と関わる基本的スキル
・自らに設定した課題の遂行
・自己選択　その他

社会への一歩

見放さない後押し

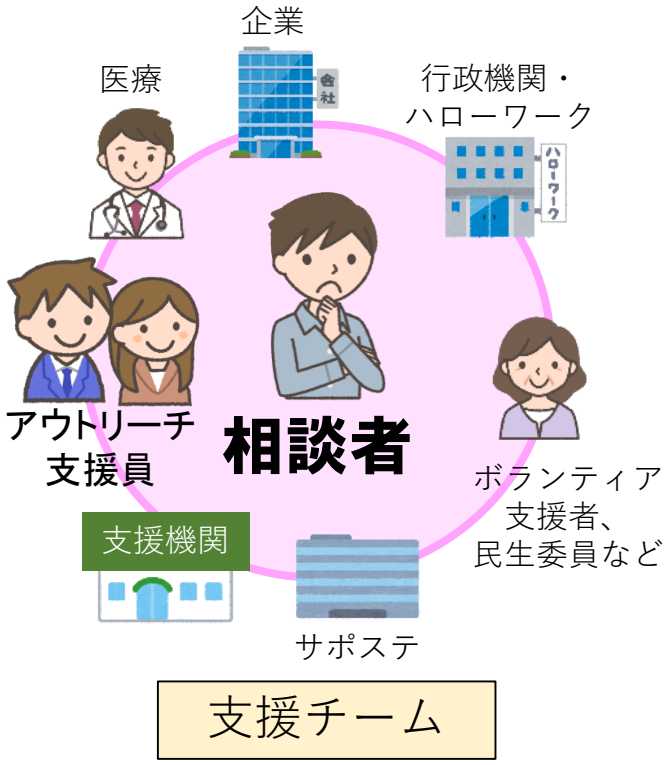


**支援者が支援をする
対象と範囲**

★必要なもの
・信頼関係を軸としたコミュニティとのかかわり
・社会的な役割を担うことができるスキル
・社会的な自己有用感

山梨県立こころの発達総合支援センター田中先生　講演資料より抜粋

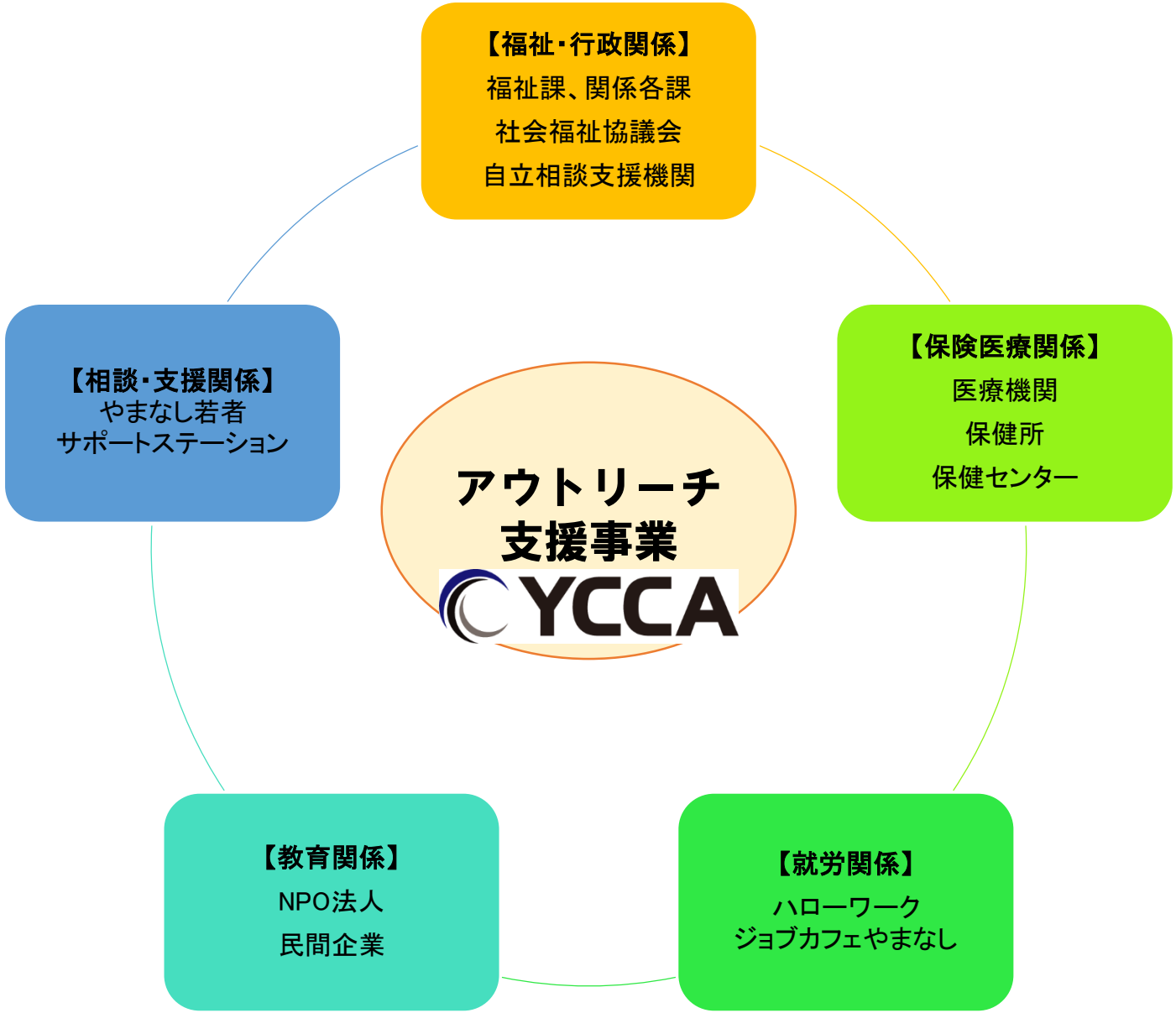
アウトリーチ支援員は市内全域の当事者宅へ定期訪問



●アウトリーチ支援員を通じて、支援者同士のネットワークを形成。

●当事者同士のネットワークを形成し、イベントや体験会を通じて集い、当事者の孤立を解消。

当事者を支援する関係機関



【福祉・行政関係】
発見、支援機関への繋ぎ、生活支援

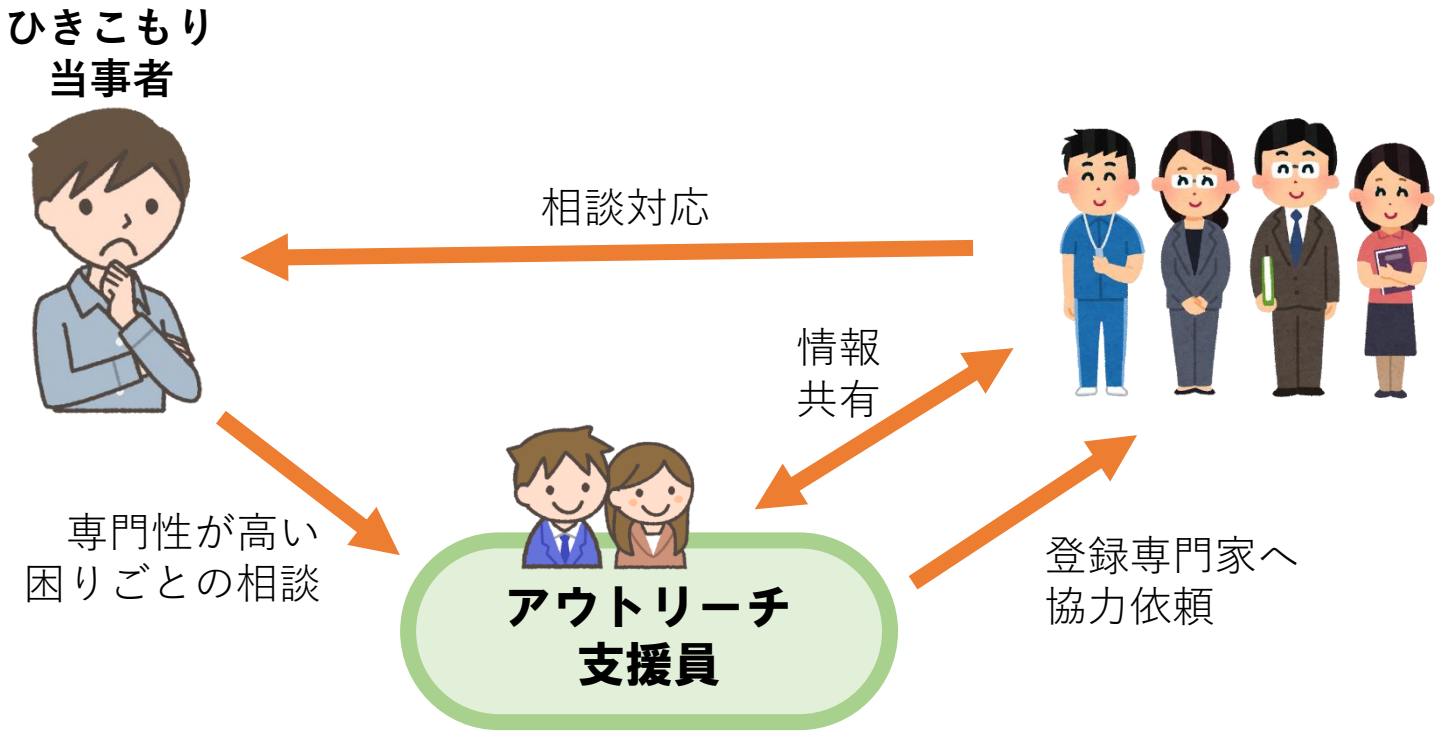
【保険医療関係】
検査・診断、治療、カウンセリング

【相談・支援関係】
生活相談、グループワーク、体験、社会参加

【就労関係】
就職支援、キャリア支援

【教育関係】
基礎学力向上、マナー

相談者の困りごとに専門家がつながる仕組みを構築



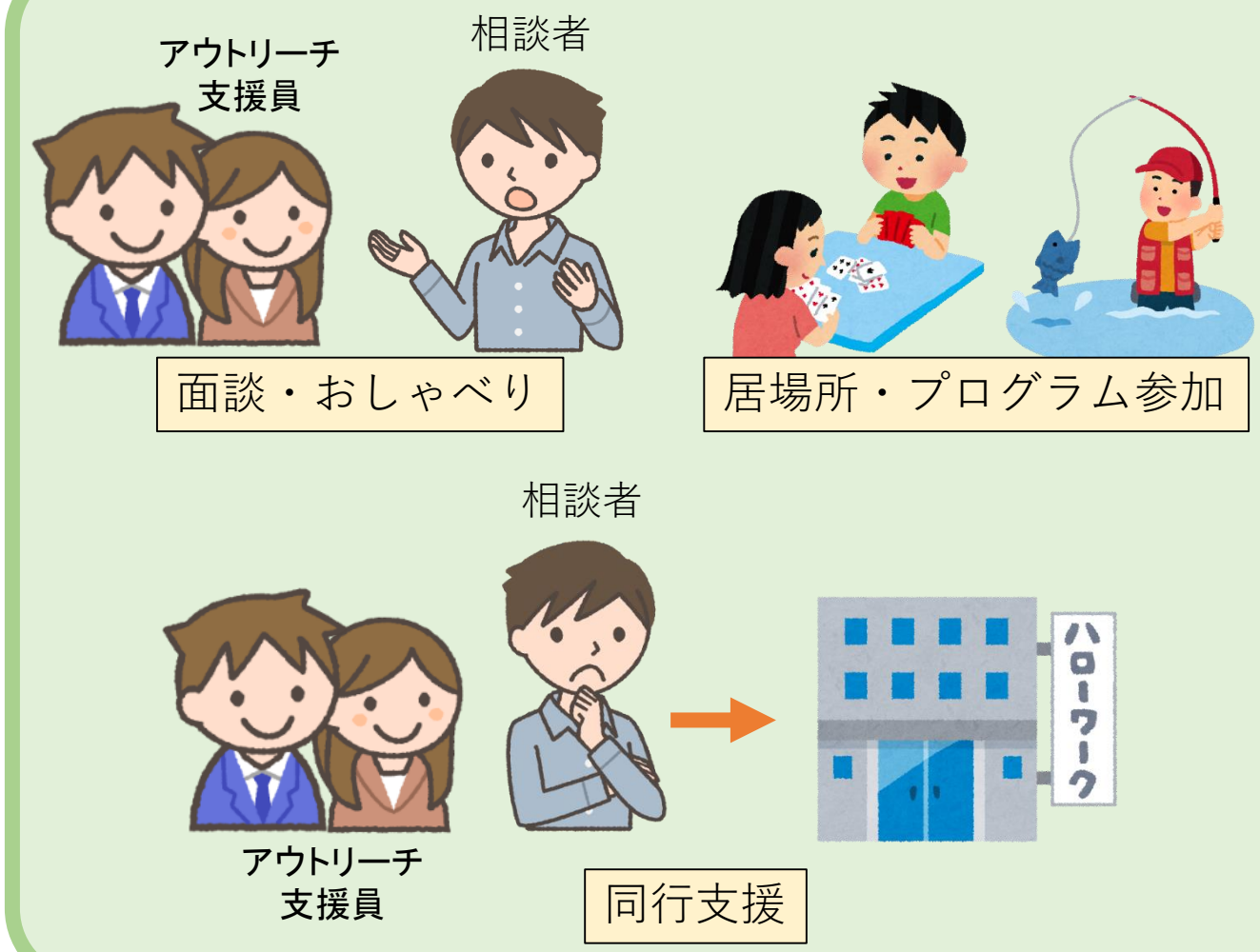
●専門家例

・心理関連
・心理検査
・再非行防止
・金銭管理
・法律関連
・債務整理
・カウンセリング
・キャリアコンサルタント
・各種インストラクター
など

地域のインフォーマルな社会資源に協力依頼

（退職後の専門家に依頼、教師、弁護士、精神保健福祉士など）

困難を抱えた若者を、地域資源につなぐ



アウトリーチ支援員が若者と地域資源をつなぎ、若者のバックアップを行います。

●ボランティア活動例

・家庭訪問同行
　相談者の自宅を訪問し、状況に応じた働き替えをします。

・同行支援
支援機関、居場所、公的機関などに同行します。

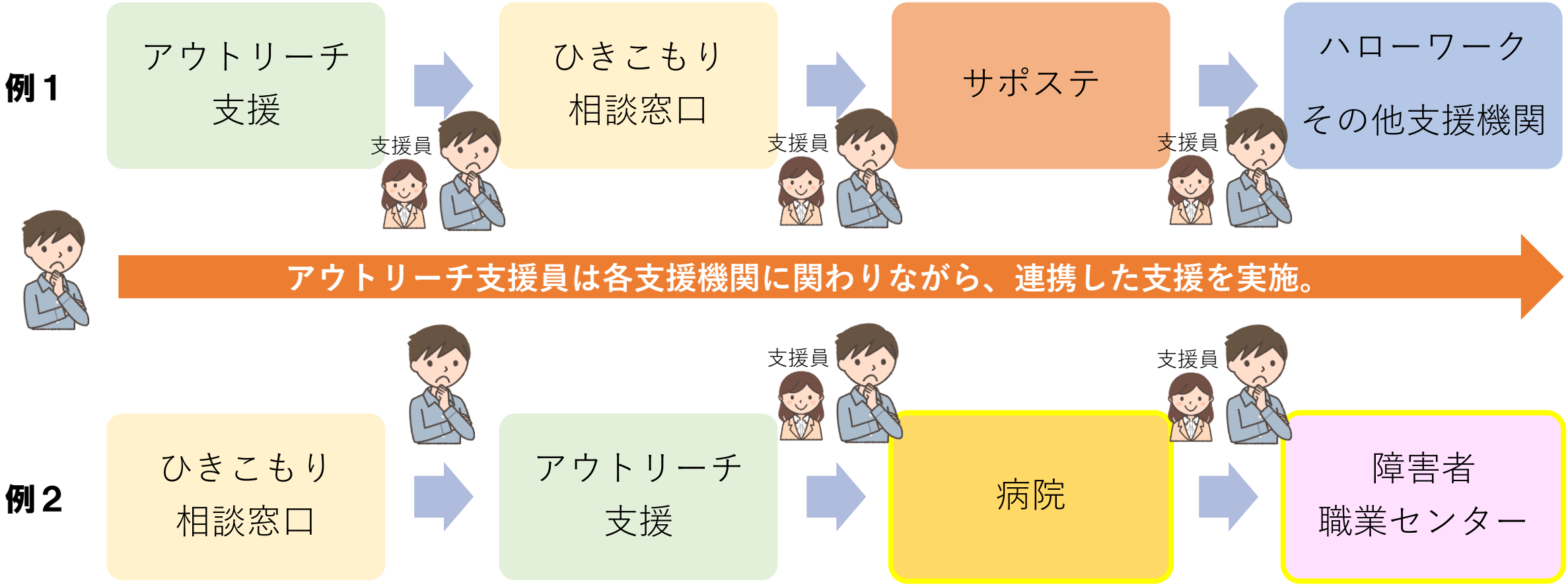
・面談、おしゃべり
趣味の話、雑談など、相談者に寄り添った会話をします。

・居場所、プログラム参加
相談者と一緒に活動し、趣味の集まりやイベントに参加します。

など

「気にかけてくれる存在」「友達以上家族未満の関係性」

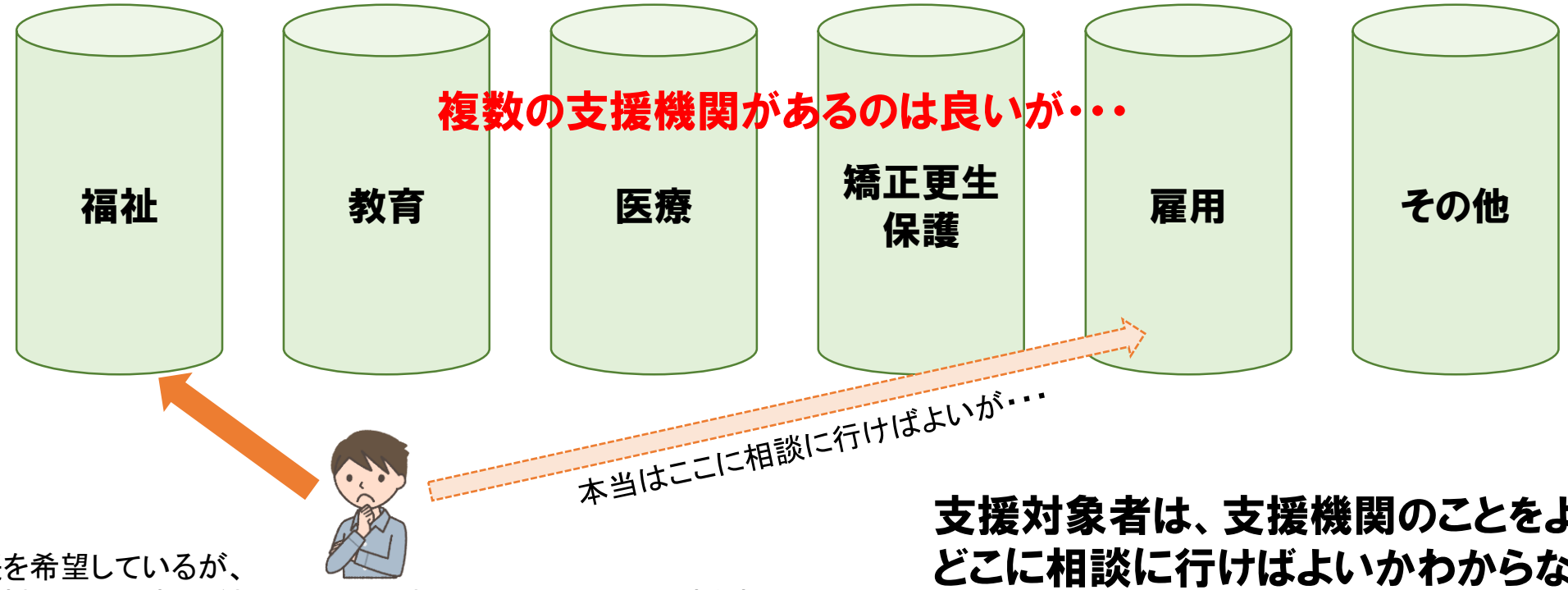
1つの機関では支援が完結しない、
各機関が繋がりをもったリレー型伴走支援



サポステの支援機能

【適切な支援機関への繋ぎ機能】

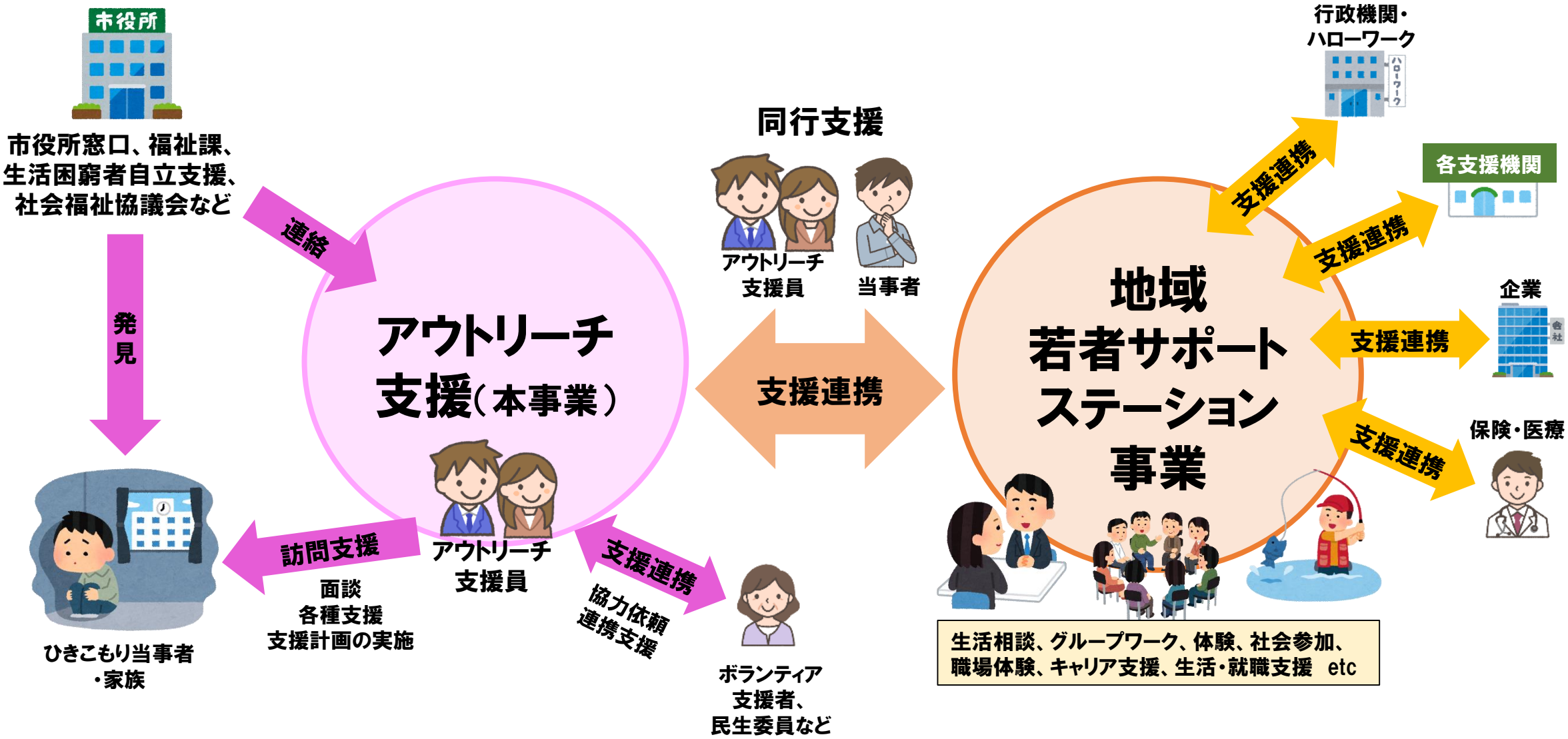
支援対象者が抱える悩みは様々な側面を持っているが、支援対象者は自分の“知っている”相談場所に相談に行く。しかし、そこが必ずしも適切な相談先とは限らないため、相談先が適切な対応を取らなかった場合や、支援機関同士の連携が取れていない場合、相談者は適切な支援に繋がれず“支援のはざま”に落ちてしまう。



実は就職支援を希望しているが、
知っている相談機関に相談・・・結果、たらいまわしにされることで相談をあきらめる。

支援対象者は、支援機関のことをよく知らないため、どこに相談に行けばよいかわからない。

アウトリーチ支援とサポステの関係



当協会の実績

【保有資格】 キャリアコンサルタント、産業カウンセラー、キャリアコンサルティング技能士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、メンタルヘルスケア、若者応援キャリアコンサルタント、その他

【実績】 生活困窮者自立相談支援事業運営、ジョブカフェやまなし運営、山梨県求職者総合支援センター運営、生活相談支援、就職相談支援、同行支援、中間就労支援、その他

【支援機関ネットワーク】 内閣府政策統括官　青少年企画・支援担当、認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス　谷口氏（佐賀県）、認定NPO法人　青少年自立援助センター　理事長（東京都）、認定NPO法人「育てあげネット」、NPO法人やまなしライフサポート、NPO法人山梨県就労支援事業者機構、山梨県内ひきこもり支援団体、やまなし・しごと・プラザ、山梨県中小企業団体中央会、山梨県精神保健福祉センター、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構、山梨県北病院をはじめとする各病院、山梨県内障害者支援機関、福祉法人、山梨県内民間企業およびNPO法人、若者サポートステーション事業　統括コーディネーター（全国）、子ども・若者総合支援センター事業　所長（全国）、など

本件に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人
山梨県キャリアコンサルティング協会
担当　長谷川

〒409-3841　山梨県中央市若宮49-7
TEL 055-274-7722　FAX 055-274-7666